

嵯峨嵐山におけるインバウンド消費動向に関する調査とワークショップ

嵯峨嵐山地域における外国人観光客に関する現状調査と提言を通じて、観光客へのおもてなし向上に取り組んでいます。



中国人観光客へのアンケート調査の様子

活動の概要

目的	嵯峨嵐山における中国語圏観光客への対応力強化 / 多文化共生の観光地・地域社会の実現
連携メンバー	嵯峨嵐山おもてなしビジョン推進協議会 京都商工会議所 福知山公立大学地域経営学部教授 谷口知弘氏 関西大学社会学部 劉雪雁研究室
活動地域	京都府京都市嵯峨嵐山地域
活動期間	2015年6月～(継続中)

連携の経緯

近年、嵯峨嵐山では、中国語圏観光客の全観光客数に占める割合が8割までに伸び、地元の商店街の主要な顧客が日本人観光客から外国人観光客へと移行している。
その動向の中、嵯峨嵐山おもてなしビジョン推進協議会は訪日中国語圏観光客急増への対策が十分でないことを課題視。同協議会のコアメンバーで関西大学OBの加藤氏から本学に対して、中国語圏の事情に詳しい研究者の協力要請があったことをきっかけに連携が始まった。

解決すべき課題

- (1) 訪日中国語圏観光客急増への対策検討



春節(旧暦の正月)に実施した嵐山駅前での餅つきイベントの様子 復旦大学生が嵯峨嵐山を訪れた際に実施したワークショップの様子

大学の役割

本事業は、急増する中国語圏観光客の現状把握から、コミュニケーション増進や情報発信の方法を見出し、中国語圏観光客へのおもてなし向上、最終的に多文化共生の観光地・地域社会の実現を目指すものである。劉研究室では嵯峨嵐山おもてなしビジョン推進協議会および谷口研究室との協力の下、主に以下の活動を展開した。

- 【文献調査】対象地域に関するガイドブック、無料パンフレット、インターネット上の書き込みなどの観光情報を調査・分析
- 【ワークショップ】対象地域の商店街関係者向けに、中国語圏の文化、習慣や観光客の現状、特徴を紹介し理解を深めた。一方、来訪した中国・復旦大学の院生らともワークショップを開催し、嵐山観光前後のイメージ形成を確認し、情報発信の可能性を模索した。
- 【アンケート】2015年9月、11月および2016年2月に対象地域で中国語圏観光客及び日本人観光客向けにアンケートを実施。観光客の属性、ニーズ、印象、満足度などを把握した。
- 【情報発信】劉ゼミ生が中心となって事業内容の記事を作成し新聞に投稿した。

なお、上記の活動は協議会および谷口研究室が実施する、地域住民が課題や目的を共有するためのワークショップや試験的に実施された中国語圏観光客向けイベントなどと密接にリンクして展開した。

成果

- (1) アンケート、文献調査およびワークショップの成果を報告書およびワークショップにて発表
- (2) 地域住民の中国語圏観光客への理解、インバウンドへの意識および積極性が向上
- (3) ゼミ生のコミュニケーション力、行動力および取材力が向上
- (4) ゼミ生が取材・執筆した記事がSANKEI EXPRESS紙にて掲載された
- (5) 一連の活動が複数回にわたってメディアによって報道された

今後の展望

- (1) 地域住民による嵯峨嵐山の地域資源の再評価
- (2) 地域住民と外国人観光客が共感する文化的背景や共通点の調査研究

研究者の紹介



社会学部 准教授
劉雪雁
(りゅう しゅえいえん)

専門分野は国際メディア論。
中学・高校時代に見た日本のテレビドラマと京都の風景写真がきっかけとなり中国の大学で日本語を専攻。東京大学大学院時代はメディア論を専攻。激変する中国のメディア、それと連動する中華圏やオーバーシーズチャイニーズのメディアを多様な角度から実証研究を行った。メディアリテラシーの研究と実践活動はもう一つの大きな関心事である。